



® 平成 30 年 1 月 24 日 (水)
No. 14613 1部370円 (税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会
東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)
郵便番号 104-0061
[電話] 03-3535-3052 [FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4
(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (30) … (1)

☆知的財産関連ニュース報道 (韓国版) …… (9)

地域における観光と知的財産の関連性 (30)

東京理科大学専門職大学院

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

27. 鹿児島県種子島 (=西之表市、熊毛郡中種子町と南種子町) (商標権、営業秘密、育成者権)

2017年12月23日、「宇宙航空研究開発機構 (JAXA)」が「種子島宇宙センター (熊毛郡南種子町)」からH2ロケットを発射するのを見学する機会を戴いた (写真1~3)。

種子島は御存知の通り、昔、火縄銃が伝来した地

域であり、現在では宇宙技術を見学できる地域である。複数の時代に先端技術と関連している島は大変興味深い。今回は鹿児島県の「西之表市」、熊毛郡の「中種子町」と「南種子町」の3つの市町からなる種子島について検討する。中心都市は西之表市である。

種子島は鹿児島県内の有人離島の中で最も東に位置している。現在、人口 (29,282人) と奄美大島に



鈴榮特許総合事務所
SUZUYE & SUZUYE

〒105-0014 東京都港区芝3丁目23番1号 セレスティン芝三井ビルディング11階
電 話 東京03(6722)0800(大代表) URL <http://www.s-sogo.jp/>

所 長 ○弁理士 蔵田 昌俊 (電気・通信)
副所長 ※弁理士 野河 信久 (電子・通信)
理 事 弁理士 鶴岡 健 (生命工学)
理 事 弁理士 矢頭 尚之 (電子・通信)
常務顧問 弁理士 井関 守三 (電子・通信)
△※弁理士 岡田 貴志 (電子・ニューヨーク州弁護士)
弁理士 永島 建治 (機械)
※弁理士 角田さやか (機械)
※弁理士 清水千恵子 (海外商標)
※弁理士 矢野ひろみ (海外商標)
※弁理士 馬淵 繁 (電気・通信・情報処理)
弁理士 土田 新 (機械・バイオ)
弁理士 石井満和子 (商標意匠・不正競争)

所長代行 ※弁理士 小出 俊貴 (商標意匠・不正競争)
□弁護士 金子 博人 (知的財産法務)
理 事 弁理士 飯野 茂 (物理・計測・分析)
常務顧問 ※弁理士 峰 隆司 (電気・電子・通信)
※弁理士 佐藤 立志 (電子・通信・ソフトウェア)
弁理士 堀内美保子 (化学・バイオ)
※弁理士 宮田 良子 (電気・電子)
※弁理士 朝倉 傑 (電子・通信)
※弁理士 石川 真一 (機械・バイオ)
弁理士 片岡 耕作 (機械・制御)
弁理士 飯田 浩司 (機械・電気・バイオ・医療機器)
弁理士 辻本 典子 (バイオ)

所長代行 弁理士 福原 淑弘 (電気・電子・通信)
主 監 弁理士 井上 正 (電子・情報・通信)
理 事 弁理士 森川 元嗣 (機械)
常務顧問 弁理士 河野 直樹 (化学)
※弁理士 幡 茂良 (商標意匠・不正競争)
※弁理士 金子 早苗 (化学)
弁理士 堂前 俊介 (電気・電子)
※弁理士 橋本 良樹 (商標意匠・不正競争)
弁理士 中島 千尋 (機械・制御)
弁理士 柴田紗知子 (物理)
弁理士 中丸 慶洋 (電子・情報処理)
弁理士 佐藤明日香 (電気・通信)

○ 米国パテントエージェント (合格) ※ 付記弁理士 (特定侵害訴訟代理) △ ニューヨーク州弁護士 □ 顧問弁護士

【顧問法律事務所】 弁護士法人 内田・鮫島法律事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目10番1号 虎ノ門ソインビルディング東棟16階 電話 (03) 5561-8550 (代表) FAX (03) 5561-8558 URL <http://www.uslf.jp/>

次いで2番目である。

実は、この島は『日本書紀』にも登場している。この書物の中で「稲作の二毛作が行われている豊かな島」と書かれている。種子島は今も農業が盛んな地域で、食糧自給率(カロリーベース)が約800%と言われている。このため、「種子島は餓えを経験したことがない。」と言う羨ましい実り豊かな島である¹。

また、昔から桜島や静岡など多くの地域から多くの移民を受け入れて来た。多くの移民の受け入れを可能にしたのも、食に恵まれた環境であったからである。

1969(昭和44)年10月、JAXAの前身である宇宙開発事業団(NASDA)の設立時に種子島宇宙センターは開設された。

最近では多くのサーファーが移住し、マリンスポーツ等も盛んに行われている島である。

写真1: H2ロケットの発射風景(筆者撮影)



写真2: H2ロケットの発射風景(筆者撮影)



定史跡)」と「中種子町立切遺跡・大津保畑遺跡」である。これらは鹿児島県内で最も古い。

また、種子島は旧石器時代に人類が生活をした数少ない離島の一つでもある。「細石器文化」も確認されている。南種子町の「銭亀遺跡」は、細石器文化が確認された日本列島最南端の遺跡である。

縄文時代には、九州島南部の縄文文化とほぼ同一の土器様式が確認されている。

弥生時代後期～7世紀にかけては「貝文化」が展開した。その種子島独自の貝文化を代表する遺跡として、南種子町の「広田遺跡(国の史跡)」が著名である。

この広田遺跡とは、九州島の南方に浮かぶ種子島の南東部の海岸に面した砂丘上に所在する墓地遺跡。昭和30年に発見され、1957(昭和32)～1959(昭和34)年にかけて発掘調査が行われた。合葬を含む90基の埋葬遺構、158体の人骨、4万4千点以上の貝製品などを確認した。埋葬されたのは、弥生時代後期後半から古墳時代後期に併行する時期と考えられている。

遺構としては、土坑墓、覆石墓、複数の人骨を数体ごとに再埋葬した墓があり、副葬品は豊富で、貝符・竜佩型貝製垂飾、オオツタノハ貝輪・ゴホウラ貝輪、イモガイ珠・ツノガイ珠といった貝玉があり国の重要文化財に指定されている。

これらから種子島独自の墓制のあり方を知ることができる。また、各種の貝製品を伴う人骨が良好に遺存していることから、生活風習や埋葬習俗のあり方を知ることにもできる。列島の弥生、古墳時代社会と南島社会の接点における社会・生活のあり方を知るだけでなく、わが国の文化形成の多様性を知るうえで重要である。

8世紀の種子島は律令国家の支配下におかれた。702(大宝2)年、令制国として隣の屋久島も含めて「多禰国(たねのくに)」が置かれた。島北部に「能満郡」が、南部に「熊毛郡」が設けられた。この時代の地名が現在の住所表示に使用されているのは珍しい。中央政府から国司が任じられ「多禰守」として二島を支配した。

この多禰国は平安時代の824(天長元)年に廃止された。能満郡は熊毛郡に統合され、「大隅国」に編入された。

(1) 歴史^{2,3,4,5,6}

種子島でもっとも古い遺跡は、約3万5千年前(較正年代)の南種子町の「横峯遺跡(鹿児島県指